

令和7年度 前年度の改善方策について実行した改善結果
(学校関係者評価委員会からの報告を受けて)

赤松学舎 世田谷区立松沢中学校
校長 大塚 洋一

1 互いを尊重し、認め合う「心」をはぐくむ教育の推進

- (1)生徒間で注意できる雰囲気醸成に努める。委員会をはじめとするリーダーの育成・指導と教員によるフォローをしていく。
- (2)道徳の授業や人権教育を通して、生徒自身が多様性や命の大切さを理解し、尊重する豊かな心を育む。
- (3)日々の学校生活や行事を通して、生徒の自尊感情や認め合う力、よりよい人間関係をつくりあげる力を育てる。

【改善結果】

「私たちのクラスでは生徒同士で注意しあうことができる」(生徒)肯定的評価84%(前年比+21%)
→昨年度より全体で+21%と増加していることから、生徒同士で注意しあうことを認める心が育ってきていると感じる。今後は一部のリーダーが自覚をもって注意している現状から、さらにサブリーダーやフォロアーに広げていけるようにしていきたい。

「道徳の授業を通して、自分とは異なる多様な考え方に触れることができる」(生徒)肯定的評価84%
→「特別の教科 道徳」では学年内ローテーションを実施し、いじめや人権問題など様々な題材を取り上げるとともに、価値観を広げるため他の生徒の考え方の共有や授業の振り返りを大切にしたい。
→他学年と比べ肯定的回答が低い学年における授業改善を検討していきたい。
→委員会・行事・部活動における上級生・下級生など他学年や他の学級との関わりを通して、協調性や思いやりの心を育てることができた。

「私のクラスでは先生や生徒同士が話しやすい雰囲気がある」(生徒)肯定的評価94%(前年比+8%)

「先生は学校行事において生徒の意欲を大切に指導している」(生徒)肯定的評価93%(前年比+5%)
→相談しやすい環境を作るため授業後に教室に残っていたり、早めに教室に行き教室でいろいろな生徒と話す機会を作った。
→生徒が主体的に行動できるように、1年次より意識的に指導すること。また、生徒の考えや判断を肯定的に受け止めるように努めること。

2 自ら学ぶ力、探究的な「学び」の推進

- (1)「知識を教える」から「主体的に課題を解決する探究的な学び」となる授業を推進する。
- (2)タブレットに限定されずICT機器を活用し、「より学習効果が期待される授業」「分かりやすい授業」となるよう教材研究・準備を進める。
- (3)ICT機器の活用を含め、言語活動を基盤とした「自分の考えを発信する学び」を積極的に取り入れる。
- (4)キャリア・未来デザイン教育の一環として、3年間の系統的・計画的なキャリア教育を推進する。生徒にとって進路・進学に限定されない「未来」「生き方」を考えさせる。

【改善結果】

「先生は映像やタブレットなどのICTを利用している」(生徒)肯定的評価94%(前年比+6%)

「授業では考えたことを話し合ったり、発表しあったりする機会がある」(生徒)肯定的評価96%

→すべての学年で90%を超える高い評価であった。

→AIを用いた個別学習やゲーム感覚での単語学習、生徒間の意見共有など多様なアプリケーションを目的に応じて活用した。

→ロイロノートなどを用いることで発表や意見交流がしやすい雰囲気を作り、言語活動を基盤とした主体的に考えて発信する学びに結びついた。

「自分の進路や将来の仕事、生き方について考える授業がある」(生徒)肯定的評価79%(前年比+4%)

「学校は進路や将来の仕事に関する情報を提供している」(生徒)肯定的評価86%(前年比+6%)

→系統的・計画的キャリア学習計画の見直し、実施により、肯定的評価が増加した。また、保護者の肯定的回答も昨年度よりわずかに増加している。しかし、保護者の認識として、生徒に行っている具体的なキャリア教育、進路の情報提供などは伝わっていないという課題も残った。

3 地域連携の充実と適切な情報発信の改善

(1)情報発信の活用方法、運用方法について検討・整理し、必要な情報をタイムリーに発信していくよう再構築する。

(2)教育資源を活用した「職場体験」、地域で活動する「ボランティア活動」など体験活動の充実や参加促進の広報に努め、地域と連携した学校づくりを推進する。

【改善結果】

「本校は様々な便りなどで、保護者に情報を提供している」(保護者)肯定的回答82%

「本校はホームページやすぐーるなどで、情報を適切に提供している」(保護者)肯定的回答87%

→ホームページの改善には多少課題は残ったものの、充実した内容の情報発信という改善ができた。また、すぐーるによる情報提供もフィルタリング機能で埋もれないよう努力した。

「本校は地域の人や施設を教育活動に生かしている」(保護者)肯定的回答51%

→地域と連携したさまざまな取り組みや地域人材を生かした取り組みを行っているものの、その取り組みが地域人材の活用・連携と認識されていないように感じている。今後も、地域での職場体験実施、音楽祭への吹奏楽部参加、松沢児童館のご協力による赤ちゃんふれあい体験や居場所づくり、日本大学との連携など地域とのつながりを大切にしていきたい。